

目的 男性更年期 (male climacteric) の概念は、Werner (1939) によって提唱されたが、その後、女性と同じ意味合いで、男性の更年期をとらえることはできないと反論された。しかし、向老期の男性においても、女性の更年期症状と類似した身体諸機能の低下ならびに精神・心理的な変化が観察されている。そこで、男性更年期の存在を明らかにするために、これらの症状の出現年齢ならびにその特徴、さらにそれらに影響を与えている諸要因について検討してみた。

方法 某女子大学の父親 383 名を、女子大生によって面接調査をおこなった (回収率 55.1%)。この場合、長期入院、あるいは外科手術などの経験のあるものを除外し、45 歳以上 60 歳未満の 175 名 (有効回答率 45.7%) について、身体的な機能低下ならびに精神・心理的な変化の出現年齢、さらに、生活環境の変化、食生活状況などの関連を観察した。

結果 男性においては、身体的な機能低下 (老眼鏡の使用、眼性疲労、睡眠障害、腰痛、酔いやすい)、ならびに精神・心理的变化 (物忘れ) の出現は 45 歳から 50 歳にかけて比較的多く観察された。また、この年齢期は疲労、頭重、頭痛、肩こりなどの身体的愁訴数も多く観察された。さらに、これにともなって、いろいろな生活環境の変化を経験する時期でもあった。この場合、身体的機能低下は、精神・心理的变化よりも 1~2 歳早く出現することが観察された。一方、身体的な機能低下ならびに精神・心理的な変化の比較的早い年齢に出現するものについては、几張面な性格のものが多く、また、食事摂取の不規則な人、あるいは食事内容に偏りのある人が比較的多かった。